



●玉ねぎ栽培

●苗作り

苗床は、日当たりと水はけの良い場所を選び、1平方メートル当たり堆肥2kgと苦土消石灰100gを施用します。元肥としてホウ素入り868を60g全面に施用し、その後細かく耕し畦立てします。

●は種

「バラまきの場合」

苗場表面の土を、よく砕いてならしておきます。種をまく前に薄く苦土消石灰をまいておくと間隔がよく分かります。種まき後は、クワの裏などで軽く押さえて種が隠れる程度に覆土を行い、たっぷり水やりを行います。

「条まきの場合」

苗場表面の土を、よく砕いてならしておきます。その後、板きれ等を使って10センチ間隔にまき溝を付け、まき溝の中に1〜2センチの間隔に種をまき、種が隠れる程度に覆土を行い、乾燥させないように水やりを行います。

条まきは、風通しも良く病害虫防

除や、その後も管理がしやすいのでおすすめします。種まき後1週間程度で発芽しますが、発芽当初は生育が遅く不揃いになりやすいことから、苗床が乾いたらしっかりと水やりを行います。反対に、苗床が湿り過ぎると苗立枯病が発生しますので注意が必要です。

●間引き・土寄せ

本葉2枚の頃に込んだところを間引いて、株間を2〜3センチ間隔に揃えます。その後、条間を中耕除草し倒れないよう株元に土寄せを行います。

●追肥

発芽後15日を目安に、500倍の液肥かホウ素入り868を1平方メートル当たり30g施用します。

●ほ場準備

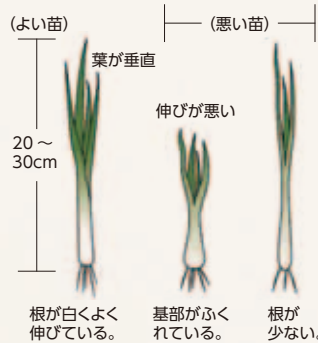
1平方メートル当たり堆肥2kg・苦土消石灰150g・B.M.よりん40gを施用した後、元肥として1平方メートル当たりホウ素入り868を130g全面に施用します。その後、土を細かく耕起した後とうねを立てます。



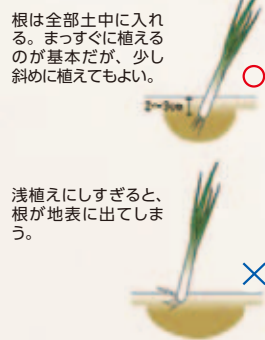
●植え付け

苗の大きさが揃わないと、植え付け後の生育ムラになり、小苗すぎると充実した大きさの玉が収穫できなくなります。大苗すぎると春先にトウ立ちしやすくなったりします。大きさを揃った苗を順番に植え付けると、収穫時の大きさも揃います。11月15日までに植え付けを済ませておくと、大玉傾向になります。

苗の良否



植え方の良否

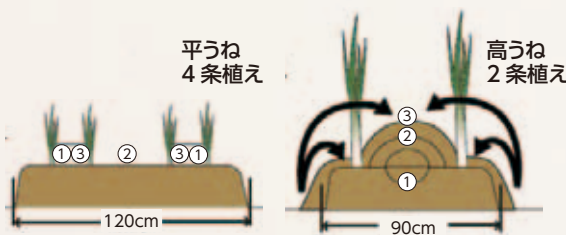


●追肥・中耕・土寄せ

1回目の追肥は植え付けの半月後、2回目は1月中旬、3回目は2月下旬を目安に行います。追肥は、

条間に1平方メートル当たり燐硝酸加里5604を30gを目安に施し、畦の表面を軽く耕して雑草防除を行います。

肥料は水に溶けて効果があらわれるため、極端に雨が少ない場合は、冬の間でも通路やうね間にかん水するなどの作業が必要です。



- ① 1回目の追肥は植え付けの半月後に。
- ② 2回目の追肥は1月中旬に。
- ③ 3回目の追肥は2月下旬に。

●燐硝酸加里 S604

1㎡当たり30gを目安に施す。覆土は1回ごとにしておく。

